



PK  
ПРОЕКТ



KU

# 極真への道



Союз Киокушин  
Каратэ России

The way to Kyokushin

## 第11号

PWC



### 第6回極真空手ワールドカップ

DIPLOMA

### 第50回全日本空手道選手権大会

### 戸田道場四天王

### 第8回愛媛県戸田道場交流試合

### 戸田師範高段位昇段審査会

### 令和二年度強化選手指定

## 強豪列伝

# 日々の生活をより豊かにするための**極真空手**

## 新型コロナウイルス禍の今こそ強い心と身体を作ろう



国際空手道連盟一般社団法人 代表師範 戸田美智男

新型コロナウイルス感染症の蔓延で、日本を初め世界は深刻な危機に陥っています。戸田道場が主催し4月2日から5日間、世界20か国約110人の参加を得て松山市で開催予定であった「国際セミナー」が中止となるなど、全ての行事が延期や中止に追い込まれ、さらに道場生の健康と命を守るために道場稽古を止めてオンライン稽古に移行してやってきました。

緊急事態宣言が解除されて、6月から全道場で何とか道場稽古を再開することができました。

しかし、マスクやフェイスシールドをつけての満足な稽古ができない中、多くの道場生が日常の生活に戻れず、先が見えないことへの不安を持っているように見えています。

そのような中、私は今修行している極真空手がその不安解消の糸口になると確信しています。

極真空手は直接相手に技を当てる直接打撃制という激しい空手であり、また年間を通じて秋・冬の合宿、極寒の海に浸かっての寒行、昇級・昇段審査、合同強化稽古、愛媛県大会など多くの大会への出場など通常稽古以外にも厳しい修行を通じて自己の心身の強さを磨いています。

また、稽古中に乱れた呼吸を整えて身体中に酸素を行き渡らせ疲労を取るために丹田式呼吸を行っており、そのうえで稽古の最後には全身に力をみなぎらせるために、丹田を中心に呼吸をする前払い(のがれ表の呼吸)と貫手(のがれ裏の呼吸)を行います。

更に、型の三戦(サンチン)や転掌(テンショウ)では、丹田を強化して最大のパワーを引き出すために最も重要と言われる「陰陽の呼吸」と呼ばれる「息吹き」を行いながら鍛錬を行うのです。

この様に極真空手では、呼吸法を重要視し空手に欠かせないものとして、繰り返し稽古をしています。

現在、本部道場では、ストレスを強く感じた脳を呼吸に集中することで休ませて、自律神経を整え不安を取り除くことにも有効な丹田式呼吸法を使つての瞑想を行っています。

通常の厳しい稽古とは対称的なことを行い自分の空手を見つめてもらい、2つあわせて自分を高めて忍耐力や自制心を養うことを目的にしており、より一層不安感がなくなるものと思われます。

さらには、確かに空手の強さを求めることは重要なことですが、先天的な才能や体力など個人的な差が大きく、また年齢的に空手をするのが無理だという方も多く、単に強さを目指すだけの空手では、多くの人たちに受け止めてもらうことはできません。

強さだけではなく極真空手を修行しやり遂げたことで精神的に自信が付き、仕事や勉強にプラスとなり、家庭が円満になるなど日常の生活が豊かになって「この空手を一生続けたい」と考えるようになる、そのような空手を目標にやってきました。

今では各道場内には親子で稽古する方々が激増し、さらに50歳以上の壮年部も多く、両部門をあわせると実に会員の4分の1以上を占めるという他組織には見られない状態になっています。

強さのみを求めていたのではこの状況は生まれていなかったでしょう。

家族や壮年の方を中心に道場生同士が心を通じあい励ましあいながらも、その反面では厳しく切磋琢磨をしながら、困難に耐えられる力を誰もが身につけて欲しいと常に考えています。

今、新型コロナウイルス感染症の終息が見えないこの時代に、必要とされる空手それは戸田道場だと信じており、今後もコロナ禍のさなかでも視野を広く持ち皆で助け合い、むしろ幸福感を高めていきたいと思っています。



# 第6回ワールドカップ

2019年10月6日(会場 ロシア モスクワ パラオフスポーツディナモ)

## 國本明佳選手 軽量級準優勝



2年に1度世界各地で開催される一般社団法人極真会館のワールドカップの「第6回大会」はロシア極真連合会の主催で、昨年10月6日(日)にロシアの首都モスクワにおいて36ヶ国参加で型部門60人、組手部門には205人の選手が出場して開催され、日本は型部門も出場者はなく、出場した組手部門、一般上級は男子4クラス、女子3クラスに分かれて覇を競った。

近年は第4回のチリ大会、第5回のインドネシア大会において、日本が圧倒的な力を見せて入賞者の多くを輩出してきたが、最近ではロシアを中心として旧ソ連邦圏の国々が組織の拡充を図って強化策を進展しているために油断はならない状況である。

昨年6月に開催された「第35回ウェイト制全日本選手権大会」で上位に入賞した者から選考された他流派を含めた日本代表選手は女子5人、男子9人の合計14人と七戸康博理事長を団長とする役員、審判を合わせて25人の選手団は全員の入賞を目指して会場に臨んだ。

愛媛県戸田道場からは國本明佳選手が、同全日本ウェイト制大会軽量級で準優勝し、初の日本代表として役員の中野師範、審判の神原先生と共に軽量級に優勝を目指して出場した。

### ◆國本明佳選手の戦い 女子軽量級(-55kg)

軽量級には日本からは國本選手以外にウェイト制軽量級の優勝者、福德萌花選手(極真会館東京紅衛会)と同大会ウェイト制軽量級ベスト4の平山幸枝選手(誠會)の3人が出場した。

福德萌花選手は1回戦、タジキスタンのビクトリア チュビリア選手との戦いでは激しい胸突きで攻撃したが本戦は1-0と引き分け、延長ではさらに手数を増やして圧倒し5-0で勝利した。2回戦もロシアのダリア クリレンコ選手と当たり圧倒的な攻撃により本戦5-0で勝利した。準決勝のこれまたロシアのタチアナ カタシヨ選手との戦いを胸への突きの連打、下段廻し蹴りを効かして本戦4-0で決勝戦に駒を進めた。



一方の國本明佳選手は1回戦シード、2回戦はロシアのサルタナ アドサラモバ選手と当たり、國本選手の威力ある突きが胸と腹にヒットして圧倒し5-0で本戦勝利となる。準決勝も同じロシア勢のユリアナ チュリナ選手との対戦となったが、胸に威力ある正拳突きが入り、たまたらずくまり技有りとなり、続いて左上段廻し蹴りが顔面に当たり技有りとなり合わせ1本勝ちで決勝に進んだ。

決勝戦は福德選手と國本選手という日本人同士の対戦で、今年のウェイト制女子軽量級決勝戦の再現となった。本戦、お互いが激しい突き蹴りの攻防となったが、後半、國本選手に疲れが見えて技の数が減り、福德選手の攻撃がやや有利となり本戦3-0と僅差の判定勝ちで優勝となった。

國本選手は体重を維持するための食事制限が響いて体調が悪い中、必死で戦ったが接戦を制することができなかったことから、次回こそ頂点に立つことを胸に刻んだ。

七戸博康団長は「この経験を生かして、来年4月の新横浜武道館での日本選手の優勝に向けて一致団結して備えていこう。」と呼びかけた。

日本選手団14人は優勝3人、準優勝4人、第3位2人と入賞者の合計9人という結果であったが、ロシアなど旧ソ連圏選手に対する大声援と、地元優位なジャッジという完全アウェイの中、全員が一団となってそれを跳ね返して戦った結果であり、素晴らしい成果と言える。

なお、日本選手団のその他の入賞者は下記の通りであるが、期待された日本を代表する芦高侑平選手(極真関西総本部)、重松翔選手(極真宮崎山下道場)の2人は決勝に進むもいずれもロシア勢に敗れた。

- 男子超重量級(+90 kg) 準優勝 芦高侑平(極真会館関西総本部)
- 男子重量級(-90 kg) 準優勝 重松翔(極真宮崎山下道場) 第3位 鞠谷貴大(誠會)
- 男子中量級(-80 kg) 優勝 大淵将也(極真会館関西総本部) 準優勝 下川哲槻(晃哲會)
- 男子軽量級 第3位 大場健吾(無限勇進會)
- 女子中量級(-65 kg) 優勝 福德結実(極真東京紅衛會)
- 女子軽量級(-55kg) 優勝 福德萌花(極真東京紅衛會) 準優勝 國本明佳(極真愛媛戸田道場)





駒沢オリンピック公園総合運動場室内球技場で開催された、50回という節目に当たる無差別の全日本大会に、愛媛県戸田道場から一般男子に志賀賢一選手(西条道場)、一般女子に國本明佳選手(今治道場)、壮年男子(40歳代)に藤原弘之選手(今治道場)の3人が出場した。

今回から五輪大臣となり多忙のため会長を退任された橋本聖子参議院議員に代わり、戸田師範の要請により地元愛媛県から会長に就任された塩崎泰久衆議院議員(前厚生労働大臣)が松山から駆けつけて大会に出席していただいた。

塩崎会長は会場内にいた愛媛勢の3人を見つけ、励ましの言葉をかけて頂いたこともあり3人は優勝を目指して決意した様子であった。

### 壮年男子(40歳代)

初出場の藤原弘之、一回戦は高草木晃選手(東京佐藤道場)との対戦、突き蹴りを積極的に出しての攻撃の結果、本線3-0で2回戦に進んだ。

2回戦はこの大会で2連覇を果たしている山形県田畑道場の内弟子、強豪の黒沼誠選手との戦い。180センチを超える長身の黒沼選手の膝蹴りを交えた激しい攻撃に、前半戦は的確に正拳と下段回し蹴りを出して互角以上の戦いを繰り広げて勝利の可能性を感じさせた。しかし後半となり、ボディに入った膝蹴りが効いたのか技の数が激減し、判定0-5で敗れ入賞が絶たれた。対戦者の黒沼選手はその後決勝まで勝ち上がり3連覇の偉業を成し遂げた。

### 一般女子

一般女子、國本明佳選手の1回戦の相手は横浜の極真井上道場の川村咲笑選手。中盤、國本選手の2回戦は沖縄支部の強豪、金城兄妹の姉、金城杏奈選手との対戦。本戦序盤、國本選手は蹴り、突きともに互角以上の戦いであったが、中盤以降何かアクシデントに見舞われたように動きに精彩がなくなり失速、0-4で敗れる。試合終了後に片方のコンタクトレンズが落ちたということが判明し、これも仕方なく結果を受け止めるしかなかった。

12月開催予定の「第51回全日本大会」で上位入賞を目指す覚悟を語った。



## 一般男子

海外、他流派の強豪が出場した一般男子。志賀選手の1回戦は南米チリ極真から出場したアリアガラ・レナルド選手との戦い。本戦、志賀選手より一回り大会の良いレナルド選手は序盤から激しく突き蹴りを出してくる。志賀選手はどっしりと落ち着いて捌いて的確に突きと下段回し蹴りを返していく。

中盤まで、レナルド選手の攻撃は続いたが、志賀選手の技が効いてきたのか後半になり失速し、志賀選手の技が止めどなく入り圧倒する。判定は5-0で志賀選手の圧勝に終わる。

2回戦は、第7回愛媛県大会重量級優勝の増山隆太選手を延長の末破った極真沖縄支部の七戸理事長の愛弟子、多和田真大選手と対戦。本戦は志賀選手が積極的に攻撃したものの旗が2本しか上がらず2-0で延長戦となる。延長戦では一段と的確な突き蹴りを出した志賀選手が圧倒し、5-0で圧勝し準々決勝戦に進む。

準々決勝戦は昨年の優勝者、芦高侑平選手(極真関西総本部)との戦い。後半戦までは、全く互角の戦いで「もしや勝てるでは」と思わせたが、終了間近になり、芦高選手得意の回り込みながらの速射攻撃の前に0-5で敗れた。

しかし、40歳を越した年齢でのベスト8の入賞は称えられるものであり「継続は力」の言葉を実行したもので、戸田道場としても誇れる結果であった。

その他、一般男子では重松翔選手(極真宮崎山下道場)が芦高選手を決勝で破り優勝。一般女子では JFKO 全日本大会、優勝者の浅古麗美(極真埼玉木村道場)が福德萌花(極真東京紅衛会道場)を破り、昨年の雪辱を果たした。



# 戸田道場

## 四天王

昔と様変わりして、どこの流派も道場生の大半が幼年や小学校という少年部で占められていて、中学校に進学すると多くの者が部活動や勉強を理由に止めていき、さらに若者など一般部の入門が極めて少ない現状である。

そんな中で、極真戸田道場は100人近い一般部道場生が在籍し、しかも男女ともに高校生以上の若者が大会で活躍しているという、稀有な道場として有名な存在だ。

その中でも、愛媛県大会を初め各種大会で活躍する4人の若武者を、今回「戸田道場四天王」と称して紹介してみる。



# 櫻井隼斗

## その1 櫻井隼斗

この3月まで潮見本部道場に所属し、愛媛大学工学部に通いながら、戸田師範の直接の指導を受けていたが、4月から地元新居浜市の住友金属関連企業に就職が決まり、本年一杯は関東地方に研修に行くことになり、地元の(一社)極真道場において修行する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により難しい状況となっている。

誰もが彼の実力と努力を認めて、戸田道場のホープとして次世代の若きチャンピオンと期待され、事実、練習では他を寄せ付けぬ強さを発揮するが、他流派主催の大会で入賞経験はあるものの、未だ愛媛県大会では決勝の舞台に上がっていない。

そんな中、昨年10月の「第7回愛媛県大会」準決勝戦では、全日本大会入賞常連で、この大会で優勝した増山隆太選手(極真東京広尾道場)と延長2回までむしろ優勢に戦い判定での敗北となり、不運にも決勝戦に進めなかったことが記憶に新しい。

終わった後の増山選手の疲れ果てた姿に、改めて紙一重の差であったことが証明され、この戦いで勝利を得ていれば、今後、全日本大会クラスでの躍進が推測でき、本当に大きな魚を逃がしたと惜しまれた。

しかし、櫻井は「5年後の世界大会に出て戸田師範を喜ばせる。」と宣言しているとのことで、この言葉通りいずれ表彰台の最も高い位置に立つ姿を見せて欲しい。





# 直野天佑

## その2 直野天佑

新居浜川東道場開設当時の小学生で入門し今に至っている、道場責任者、青野3段の秘蔵っ子である。

同じく川東道場に所属していた櫻井隼斗と同級生で、お互いに励ましあって社会人となっても継続して修行を続けて来た根性の持ち主である。

愛媛県大会には毎回の様に出場してきたものの、目立つような成績は収めていなかったが、一昨年の「第6回大会」では、その年の正道会館全日本大会において全ての試合を一本勝ちで優勝した、国際如水会館の原田一晟選手と対戦、誰もが「倒されるであろう」との考えていた中、冷静に相手の高速蹴りを全て見切った姿は、判定で敗れたものの観衆の記憶に強く残された。

昨年の「第7回愛媛県大会」軽中量級準決勝戦で、後述する同門の曾我郁弥に判定負けしたが第3位に初入賞するという快挙を成し遂げた。

「継続は力なり」を体現する直野は、まだまだ若武者として一歩も二歩も飛躍が期待できる選手である。





# 曾我郁弥

## その3 曾我郁弥

未完の大器がついに実力を発揮したのが、昨年の「第7回愛媛県大会」軽中量級で初の決勝進出。伏兵の杉森泰斗選手(松山市誠錬塾)に判定で敗れて準優勝となったが、愛媛県大会で初めて表彰台に立った。

愛媛大学工学部では櫻井の1年後輩に当たり、文武両道を地で行っている。

今治道場の責任者である神原の下で、県女子チャンプの國本明佳や世界ジュニア大会準優勝者の松井弥陸などの強豪にもまれ、一昨年の「香川県大会」序戦の試合で優勝した香川極真の平野選手と互角以上に戦い、注目を浴びた。

その後、ウェイト制全日本大会に出場したが目立った成績は挙げられなかったが、地道に稽古を続けてきた結果、今回の成績につながった。

来春は愛媛大学大学院に進学し、さらに研究を続けながら修行を継続する予定と聞いている。

今後は師匠の神原を抜いて、愛媛県大会優勝どころか、世界大会出場を目指して精進する姿が見たい。



# 松井弥陸

## その4 松井弥陸

カザフスタンで開催された、世界ジュニア大会準優勝を初め、昨年6月に開催された「第24回グランドチャンピオン大会」の高校1年生の部で第3位に入賞するなど、各種大会で入賞しており、その実力は周囲が認める存在であった。

昨年の「第7回愛媛県大会」に、ついに一般の部に初出場し、その力が通じるか注目され準決勝戦まで上がり、優勝した誠錬塾の杉森選手に闘志をむき出しにして戦い延長戦まで食らいつき、結果、判定負けしたとはいえ第3位に入賞し一般部でも十分戦えることを証明した。

彼も今治道場の神原の指導を仰いでおり、通学する今治南高校では陸上部に所属し、稽古の行き帰りを走って往復するなどスタミナ稽古に余念がない。



# 強豪 列伝

強豪列伝型競技編

## 池内琥星選手

(松山味酒道場)

型競技での初の強豪列伝の登場。

寒作典員、智美の道場責任者2人が手塩に育てた逸材。

とはいえ、幼稚園時代に潮見本部道場に見学に行った際に、戸田師範のあまりの厳しい指導に恐れをなして、松山味酒道場に転向したという逸話が残っているほど弱卒であった。

ところが小学5年生となった現在、めきめき成長し、昨年は大洲少年大会、戸田道場交流大会、新極真全四国錬成大会など実に3大会の型の部で優勝という驚異的な成績を残す素晴らしい選手に姿を変えた。

また、組手の部でも各種大会で優秀な成績をあげて本年度の強化選手Bに指定され、全日本少年少女空手道選手権大会(グランドチャンピオン決定戦)の出場資格も獲得している。

彼の型演武は、型の3要素である「技の緩急」「力の強弱」「息の調整」を完璧にこなした上で気合、鋭い目線など演武に付加価値を加えており、審判の評価が高く、あの難関中の難関である新極真全四国錬成大会上級の部で、他流派としては異例の優勝を遂げている。

この成長の陰には、確かに寒作両責任者の指導力もあるものの、自宅で祖父の池内清さんとの二人三脚での連日の厳しい自宅稽古があげられる。

今後、型と組手に精進を続け、さらなる高みを目指すことが期待される。





# 第7回オープントーナメント愛媛県空手道選手権大会

一般上級軽中量級・重量級 極真愛媛勢頂点に立てず

女子 國本明佳僅差で栄冠

開催日時 2019年11月10日

7回目を迎えた極真会館愛媛県戸田道場主催の愛媛県大会。今年も武道の殿堂ともいえる威容を誇る愛媛県武道館で開催された。

東は東京から西は九州宮崎県までの11都府県から各県の一般社団法人極真会館を初め、42流派が30クラスに約340人の精鋭が集結した。

幼年、小中高校生上級部門の優勝、準優勝者は来年6月に大阪で開催される「第25回全日本少年少女空手道選手権大会(通称グランドチャンピオン大会)」の出場権が与えられる権利取得大会になっている。

## 男子上級中量級～極真愛媛若者の躍進

男子軽中量級は今年の優勝者である神原敏行(愛媛・極真戸田)が重量級に移ったため、今年の準優勝者で空手界のレジェンドと称される福田高広(愛媛・福田道場)が優勝の最右翼との下馬評であったが、準々決勝で当たった伏兵の杉森泰斗(愛媛・誠錬塾)がよく伸びる胸元への正拳突きが威力を発揮し、延長戦を4-0と判定勝利して準決勝に進んだ予想外の展開に、会場は感嘆と驚きの声に包まれた。

続く杉森の準決勝戦1試合目の相手、松井弥陸(愛媛・極真戸田)は一般部初出場の高校1年生ながら、今年のジュニア世界大会の準優勝者である戸田道場若手のホープ。本戦、互角の展開で判定は0-0で延長となり、杉森は突きとインロー、上段廻し蹴りと威力ある技を出し、松井の反撃を抑え判定4-0で決勝に勝ち上った。

もう一つのゾーンでは曾我郁弥(愛媛・極真戸田)と直野天佑(愛媛・戸田道場)の20歳過ぎの若き同門対決。本戦、序盤こそ互角の戦いであったが、後半から曾我の前に出ての突き、前蹴りに威力があり、下がる直野を圧倒して4-1で初めて決勝に駒を進めた。

杉森と曾我の初顔合わせの決勝戦は、曾我がステップを踏みながら突きと膝蹴りを多用するのに対し、杉森は得意の胸への威力ある正拳突き連打、中段廻し蹴り、インローで優位に立ち3-0で初出場、初優勝を成し遂げた。

入賞常連の神原が重量級に移った後を埋めるように、曾我、直野、松井の若武者3人が力強さを示し、頼もしさを感じられた。

## 男子上級重量級～極真愛媛の2人、後一歩及ばず

男子重量級準決勝1試合目は今年の本大会、軽中量級の優勝者である神原敏行と長穂斗志英(愛媛・錬真館)が対戦、開始から30秒後に神原の下突きからの右上段廻し蹴りが顔面にヒットし技有りとなり、その後も圧倒して5-0で判定勝利する。

2試合目は櫻井隼斗(愛媛・極真戸田)と東京から出場した一般社団法人極真会館の全日本大会入賞常連者である増山隆太(東京・極真広尾)との対戦。本戦は櫻井の積極的な膝蹴り、上段廻し蹴りで優位に思われたが、旗は増山の0に対し櫻井に2本しか上がらずに引き分け延長となり、延長も互角で0-0の引き分け、再延長戦にもつれ込み櫻井の前蹴り、上段廻し蹴りに対し、増山はどっしりと構えて突きとインロー主体での攻防戦、旗判定



は2-2と別れたが、主審が増山に上げて決勝に進む。

櫻井にとっては、惜しいとしか言いようのない敗戦であった。

決勝戦は神原と増山の対戦となったが、本戦は増山の下段廻し蹴りに威力があったが2-0と引き分け延長、延長戦は後半に増山が回転を上げて胸への正拳突き連打、下段廻し蹴りと、下がりながら突きと下段廻し蹴りを出す神原を上回り、3-0でこれまた初出場、初優勝となる。

### 一般女子

女子一般の決勝戦は本年度の一般社団法人極真会館ロシアワールドカップ軽量級準優勝者の國本明佳(愛媛・極真戸田)と東京から参戦し、過去ワールドカップで優勝経験のある小野愛理(東京・極真広尾)の対戦。本戦はステップを踏んで胸への突きから上段廻し蹴りを狙う國本に対し、突き、膝蹴り、インローと技の種類の多い小野の戦い、2-0で國本に旗2本が上がるも延長戦に入る。延長は、ほぼ五角の戦いにより0-0で再延長戦に突入しマスト判定、激しい攻防になったが終盤に國本の突き連打が胸に入り、4-1で優勝を遂げた。

男子は2階級共に2人が初出場、初優勝となる波乱含みの結果、女子は東京からの強豪選手の出場で、県大会とは思えない高いレベルの戦いが実現された。

### その他

その他の階級では、戸田道場の出場者は実力を発揮し、特に小学5年生男子上級では優勝した北光希(今治)と中野結翔(空港通り)、小学6年生男子上級の越智龍(川東 優勝)と小澤叶夢(西条)など決勝戦を戸田道場同門が戦ったことに象徴されるように、各クラスで入賞者を量産し、今大会で新たに10人が全日本少年少女選手権大会(グランドチャンピオン大会)の出場権を得た。

## 第7回オーブントーナメント愛媛県空手道選手権大会結果一覧

	優勝		準優勝		3位(1)		3位(2)	
幼年(年長)	藤田湊翔	横山道場	松田久優雅	白蓮会館	佐藤隼祐	極真関西総本部	田中祐輝	道真会館
小学1年女子	清水ひなの	日本如水	杉本楓梨	福田道場				
小学1年男子	今西應介	極真関西総本部	内田翔真	極真宮崎	斧龍臣	吉村道場	上地龍希	無門塾
小学2年男女混合	大嶋忠輔	戦士會	関岡湊斗	悠心道場	藏本琉愛	福田道場	佐藤大緒	極真愛媛
小学3年女子	石岡優音	志成館	宮内桜那花	志成館	結城里奈	極真広島	松井瞳依	極真愛媛
小学3年男子初級	和氣驚也	悠心道場	奥村悠央	極真愛媛	戒居虎太郎	極真愛媛	山内煌河	極真愛媛
小学3年男子上級	神田悠駿	白蓮会館	岡裕人	極真愛媛	横井鉄生	正道会館KCIEL	小田峻大	国際如水
小学4年女子	加藤瑞葵	秋山道場	神原杏菜	極真愛媛	川上妃愛	横山道場	清水ひより	日本如水
小学4年男子初級	西岡風輝	河野道場	村上晴紀	極真愛媛	兵頭泰空	悠心道場	菅暖人	日本如水
小学4年男子上級	大嶋隆太郎	戦士會	野本生真	道真会館	池内琥星	極真愛媛	三木琉誠	日本如水
小学5年女子	小倉美月	日本如水	門田望来	道真会館				
小学5年男子初級	又野時斗	眞煌会館	箱田龍海	志琉会	古本乃彪	極真広島	穂木竜之介	極真愛媛
小学5年男子上級	北光希	極真愛媛	中野結翔	極真愛媛	澤田蔵之介	極真関西総本部	高岡日向	悠心道場
小学6年女子	児島風咲	極真前田道場	高橋さら莉	極真香川	石岡莉星	志成館	横原菜日琉	新極真三好道場
小学6年男子初級	塩崎新史	福田道場	中山駿佑	志琉会				
小学6年男子上級軽量級	樋口煌雅	原道場	徳井隆介	日本如水	森翔哉	新極三好道場	渡辺圭翔	福田道場
小学6年男子上級重量級	越智龍	極真愛媛	小澤叶夢	極真愛媛	松原成到	極真香川	楠目桃大	新極真三好道場
中学女子	北彩花	極真愛媛	高橋和莉	極真香川	岡山愛佳	新極真三好道場	菊川真莉紗	極真愛媛
中学1年男子軽量級	西山隆賢	極真香川	川島光貴	新極真三好道場	松井瞭誠	極真愛媛	深川雄清	忍会館
中学1年男子重量級	三木翔斗	至道会館						
中学2・3年男子軽量級	徳井隆太	日本如水	吉田準	極真関西総本部				
中学2・3年男子重量級	赤澤優芽	白蓮会館	榎鏡元	新極真三好道場				
高校生女子	渡部はるあ	悠心道場						
高校生男子軽量級	山岡莉久	国際如水						
一般男子初級	酒井陸斗	拳剛会館	福嶋善亮	誠錬塾				
壮年の部	東坂謙次郎	極真前田道場	丹下英人	極真愛媛	國本貴裕	極真愛媛	徳田栄一	錬真館
一般女子	國本明佳	極真愛媛						
一般男子上級軽中量級	杉森泰斗	誠錬塾	曾我郁弥	極真愛媛	松井弥陸	極真愛媛	直野天佑	極真愛媛
一般男子上級重量級	増山隆太	極真東京広尾	神原敏行	極真愛媛				



# 第8回 愛媛県戸田道場 観戦記

## KYOKUSHIN 部内交流試合

新居浜上部道場 責任者(師範代) 濱井敦史

平成から令和に改元され初めての部内交流大会が、7月21日(日)砥部町陶街道ゆとり公園武道場において、のべ159名の選手により盛大に開催されました。過去最大規模の大会となった今回も審判、スタッフの皆さんのお陰でスムーズな運営ができ、大変感謝しております。

さて大会の内容を振り返ってみると、最初に行われた組手団体戦は大いに盛り上がりました。団体戦に限り強化選手も出場可能なため、道場の威信をかけた戦いとなります。

先生方や選手のみならず、保護者様も熱く声援を送る様子は、非常に頼もしくまた微笑ましくもありました。低学年では勢いのある西条道場の強さが際だっていました。高学年は優勝、準優勝とも初となる川東道場と空港通り道場でした。道場間の格差が縮まり戸田道場全体の底上げがなされている証でしょうか。

型では、本部をはじめ味酒、空港通り、三津など松山地区の各道場が今回も上位に名を連ねております。やはり戸田師範直々に指導を受けた先生方の指導する道場はレベルが高い型を披露してくれます。基本がしっかりしているからでしょう。今後は東予地区、南予地区の健闘を期待しましょう。

組手個人戦は、部内交流とはいえ選手たちは皆気合いが入っています。特に強化選手が出場しない個人戦では、レベルが非常に均衡しており、各試合目が離せない接戦が多かったように思えます。小学生では普段それほど目立たなかった選手が、実力以上の動きを見せてくれました。また強化選手並みの良い動きをする選手、涙をこらえながら精一杯頑張るチビッコなど各自成長が見られ、他流派の出場しない部内交流ならではのアットホームな雰囲気の中、今後の大きな大会出場へのステップとして良い経験が積めたことと思います。中学生になるとスピード、パワー共に迫力があり、ここから全国へ羽ばたく人材が近いうちに出るのではないかと期待しております。高校生以上の一般部は初級、上級共に子供と一緒に道場に通うお父さん選手が優勝しました。子供たちへの良い見本となり、また年齢に関係なく努力すれば夢かなうことを証明してくれました。仕事、家庭、空手の両立を、身を以て示してくれた親父選手には大きな拍手を送りたいと思います。

空手を修行して強くなるだけでなく、そのことを生活(人生)に活かす事が大切です。

このことは戸田師範が常々おっしゃられています。部内交流大会が空手の試合を通じて、友情や勇気、そして感謝の気持ちを育むきっかけとなれば大会は大成功です。今後も部内交流大会を皆様の手でおおいに盛り上げていきましょう。押忍。





## 第8回愛媛県戸田道場部内交流大会 結果一覧

部門	優勝	準優勝	3位	3位	ベスト8
組手団体戦	道場名	道場名	道場名	道場名	
組手団体戦低学年	西条道場A	西条道場B			
組手団体戦高学年	川東・新居浜警察署道場	空港通り道場			

型の部	氏名	道場名	氏名	道場名	氏名	道場名	氏名	道場名	氏名(道場名)
幼年	渡部陽道	三津							
小学生低学年初級	芳野怜穂	三津	寒作心	本部	奥村悠央	味酒	井口尊心	三津	田村英善(味酒) 高橋英徳(本部) 熊野未来(上部) 坂岡魁人(味酒)
小学生低学年上級	岩城斗也	西条	岡裕人	本部					
小学生高学年初級	西村健吾	味酒	瀧田蓮	川東・新居浜署	村上駿	空港通り	村上晴紀	本部	宮野琉輝(今治) 佐々木颯太(川東) 神原吉菜(今治) 村上一琉(本部)
小学生高学年上級	池内琥星	味酒	寒作円	本部	真鍋瑛太	川東・新居浜署	小澤叶夢	西条	
中学生以上一般男子初級	村上敦	空港通り	松木洋三	上部					
中学生以上一般男子上級	福岡光大	本部	宮園圭人	本部	丹下英人	本部	村上哲也	本部	
中学生以上一般女子初級	水本凜	大洲							
中学生以上一般女子上級	菊川真莉紗	今治	白石妃菜	川東・新居浜署					

組手の部	氏名	道場名	氏名	道場名	氏名	道場名	氏名	道場名
幼年	小川紗良	三津	宮本和弦	本部				
小学1年生	東大翔	本部	福田優真	上部	芳野穂佳	三津	西森正道	三津
小学2年生	保子凜成	上部	西村喨	大洲	松下環士	空港通り	松木蒼真	上部
小学3年生	戒居虎太郎	味酒	松井瞳依	今治	奥村悠央	味酒	山内煌河	味酒
小学4年生男子	伊藤陸	今治	小松陽翔	味酒	重松陸人	今治	村上晴紀	本部
小学4年生女子	神原杏菜	今治	高橋笑	上部				
小学5年生男子	伊藤銀河	本部	林修作	本部	末廣玲生	本部	東優伸	今治
小学5・6年生女子	瀧田凜	川東・新居浜署	岡部日向莉	川東・新居浜署				
小学6年生男子	池田翔真	今治	土居優斗	大洲				
中学生男子	久保幸輝	大洲	西村朔	大洲				
中学生女子	水本凜	大洲						
高校生以上一般男子初級	松木洋三	上部	蘆谷幹也	川東・新居浜署				
高校生以上一般男子上級	白石将博	川東・新居浜署	宮園圭人	本部				



令和2年

冬合宿

寒行に参加して

白石悠翔（新居浜川東道場小学6年）

ぼくは2月22日・23日の2日間、冬合宿にお父さんとお姉ちゃんと一緒に参加しました。

一日目、基本を100本して、しんどかったけど終わった後に、師範から力み過ぎず脱力することが大事だと教えていただいたので、これからのけいこでも基本を大切に意識してがんばりたいと思いました。

2日目午前中は、組手やミットけいこをしました。

大会で活躍している國本選手や松井選手から、試合に出るにあたっての練習方法や気持ちの作り方を学ばせてもらい、ミットけいこでは、神原先生からフェントの使い方など色々教えていただきました。

これからの試合で生かされるように、しっかりと練習して行きたいと思いました。

ぼくが、お父さんやお姉ちゃんと一緒に家族で参加してみて、合宿のけいこ中には、いつものように甘えてしまう事が許されないの、家族としてではなく、道場の仲間として、ライバルとして負けないぞ！お互いに強くなるぞ！という気持ちを忘れずに、これからも一緒に頑張っていきたいと思いました。

2日目の午後は、北条の海での寒行があり、参加するのは初めてだったので少し不安だったけど、みんなで気合を入れて最後までやり抜くことができ嬉しかったです。

500本の正拳突きでは寒くて体が固まりそうになったけど、寒さにも自分にも負けず、がんばることができて、体だけでなく心もきたえられたと思います。

寒行の後の温泉は最高でした。

ぼくは、極真空手の修行をしていく中で、体も心も強くして、困っている人がいたら助けてあげられるような思いやりのある優しい人になりたいです。

今回の冬合宿で、戸田師範に教えていただいた「心・技・体」を高める極真精神で、これからも感謝の気持ちを忘れずに自分に負けず、もっともっと強くなれるように、一生けん命がんばって強くなりたいです。 押忍！







國本明佳選手、言わずと知れた愛媛県戸田道場の代表選手。昨年10月モスクワで開催された「第6回ワールドカップ」女子軽量級準優勝者であり、2021年に横浜市新武道館で開催される「第5回世界空手道選手権大会」の日本代表の有力選手。いかにして強豪選手になったかインタビューした。

① ワールドカップで準優勝したことに対する今の気持ちを教えてください。

まずは私一人のために本当に沢山の方々が支えをくださり、とても感謝しています。一人の力では立つことができない舞台だったので、感謝の気持ちでいっぱいです。結果に対しては悔しいの一言ですが、今までも負けて負けて上がってきたので、この負けを無駄にしないよう稽古に励みたいと思います。まだまだ足りない部分も多いですし、その分伸びしろもまだまだあると思っているので、さらに強くなりたいです。

② 仕事と空手の両立の難しさがあれば教えてください。

何が、と聞かれるとよくわかりませんが、学生の時よりはしんどいかなという感じです。進学ではなく就職すると自分で決めたことですし、空手も自分が好きでやっているのでも全く大丈夫です。会社でも上司や先輩が応援してくれて、「次はいつ試合なん？」とか気にかけてくれ、いい職場環境に恵まれたなというもありがたく思っています。

③ あなたにとって極真空手とは人生においてどのような存在ですか。

特技と言われるものが何もなかった私が唯一自信を持てるのが空手です。言葉で表すのは難しいですが、自分から空手をとったら何も残らないと思っていますし、それくらい私の中で大きな存在となっていると思います。

④ 家族に対する気持ちを教えてください。

家族には感謝してもきれないです。平日は私の稽古で家族全員が揃う時間もなくて、休日にも父と練習に行ったりと2人の妹には我慢させてしまうことが多かったと思います。両親は、小学生の頃から勝てない時期も色んな大会に出させてくれ、応援してくれました。怪我が増える等色々心配をかけることが多いですが、家族の応援と協力のおかげで私は頑張っています。

⑤ 神原先生に対する気持ちを教えてください。

もし神原先生に指導してもらっていなかったら、今の私はいないです。全日本に出るような選手にもなっていな

いです。組手中はお腹を効かされ、上段を貰い、時に転がされ…ボコボコでしたが、必死に食らいついていったおかげで今の私がいます。選手として戦う姿も、稽古する姿もずっと後ろで見てきて、その背中を追ってきました。試合中一番聞こえるのは神原先生の声です。しっかり結果を残して何か返していけたらなと思っています。

⑥ 戸田師範を初め、極真会館戸田道場のことをどのように思っていますか。

戸田師範なくしては今の戸田道場はないと思っています。私自身、流派問わず様々な大会に出場させていただき、沢山経験を積むことができています。選手として戦いやすい環境を与えてくださっていることに心から感謝しています。戸田道場には世界選手もいますし、強くなる環境は充分あります。グラチャン代表選手も年々増え、追いつけ追い越せでどんどん全日本の舞台で活躍する選手が増えればなと思います。私が引っ張っていけるような存在に、そして微力ながら戸田道場を支えていければと思っています。

⑦ 目標とする選手がいれば誰ですか。

目標とする選手は特に決めていません。

⑧ 今後の目標は何ですか。

一番大きな目標は世界一になることです。これは成し遂げるまではずっと変わらない目標だと思っています。ただ、まだウェイト制でもワールドカップでも優勝を逃していますし、JFKO では毎回早々と敗退しています。まだまだ獲りたいタイトルも大会もあるので、目の前の大会で頂点に立てるよう、まだまだ進化していかなければいけないと思っています。



〈ワールドカップの表彰式〉



〈國本選手得意技 右上段回し蹴り〉



# 感動の戸田師範高段位昇段審査会に臨んで KYOKUSHIN KARATE

青野大輔（新居浜川東道場・警察署道場責任者）

本年1月20日、第50回という記念すべき全日本大会の翌日、志賀選手がベスト8入りした興奮も冷めやらぬ中、東京都世田谷区等々力にある東京都川端道場にて、我が戸田師範の高段位昇段審査会が執り行われました。

私は前日から緊張により食欲がなくほとんど眠れず、まるで自分が受審するかのような緊張感で当日を迎えましたが、戸田師範はいたって落ち着いた様子で平常心を持って審査に臨まれました。

私は6年前に大阪で行われた戸田師範の5段昇段審査にも、セコンド兼見届け人として同席しており、師範の連続組手を終わった後に立ち上がれない程の全身全霊を掛けた姿を見ており、極真会館の高段審査の余りにも厳しいことを知っていたからこそ、師範本人よりも緊張していたのかもしれない。

ビルの地階にある審査会場には、現役時代に怪物と異名を持ち海外の選手達からも恐れられた理事長の七戸康博師範と、「空手界の瀬古」と呼ばれて抜群のスタミナとスピードある技で高名な副理事長の田畑繁師範という、大山倍達の直弟子であった極真会館の双璧の審査員2人と戸田師範、そして川端先生・青野の5名しかいませんでしたが、今まで経験したことがないピーンと張りつめた一種異様な空気の中いよいよ審査が始まりました。

田畑師範の号令により、基本を各50～20本ずつ行った後、次は移動へ移りましたが、休憩という休憩もなく、マンツーマンの一息も抜けない緊張の中、戸田師範からしたたり落ちる汗が、その厳しさを物語っており、いつまでも続くかのような長い長い繰り返しの移動を終えた頃、珍しく戸田師範は肩で呼吸をされ、かなり疲労されている様子が見て取れました。

続いての体力審査は本来ならば腕立て、腹筋運動、背筋運動、スクワット各50回、合計250回を完遂しなければならぬところ、年齢が考慮されて、各運動を各3回連続に減らして行われ、戸田師範は気力を振り絞り完遂されました。

体力審査等を終えて短い休息後、残るは型審査のみの状況の中、田畑師範より「型審査は3段以上の指定型の5つを見ます。」との声がかかり、私は心の中でやった一と叫びました。

戸田師範は、とてもではありませんが全部の型をする体力はもたないのではないかと、勝手に思い込んでおりました。

ところが、そんな私の心配を他所に、戸田師範は躊躇なく「型を全部やらしてください」と力強くおっしゃいました。よほど自信があったのか、その言葉通り最後まで気迫ある、そして殺気さえ感じる鋭い動きで全ての型演武をやり遂げられました。

70歳近い年齢のため、組手が省かれたために全ての審査項目は終了となりました。

審査終了後、審査員のお二人で話し合われた後、田畑師範より「私達は大山総裁の内弟子です、戸田師範の本日の審査は大山総裁の審査基準を持って審査致しました。戸田師範は空手の技術だけでなく人物も6段に値し、更に7段8段と精進してください。戸田美智男6段位を相傳ス(あいゆるす)」と合格を宣言され、極真空手の全国での数少ない高段位合格に、私は涙と共に震えるように伝わってくる感動を隠すことが出来ませんでした。

その時、満身創痍の状態最後まで気力を出し尽くされた戸田師範に、このような素晴らしい高段位審査会に立ち合わせていただき、この感謝と感動を戸田道場みんなに伝えて参りたいと決心しました。

戸田師範有難うございます。そして、これからも我々の先頭に立って引っ張ってください。押忍。



## 高津信二先生 新たに川東道場責任者に就任

6月から、新居浜市川東道場の責任者として青野大輔3段に加えて、高津信二2段が新たに就任することになりました。

川東道場は川東中学校体育館で週2回、神郷公民館、新居浜警察署武道場で週1回稽古をしているが、稽古場が多くまた道場生も増えてきたことから、従来の責任者である青野先生1人では、指導や事務などの運営業務に負担が生じてきたことから、高津先生と共に責任者を担うことになりました。

戸田道場内では、松山市の三津道場・味生道場や味酒道場など、複数の道場が2人体制で運営されていて川東道場もそれらと同様の形になります。

高津先生は、既に神郷公民館での指導を任されていて、指導力には定評があり極真空手に対する情熱も高く、今後の川東道場の発展に大きな力を発揮してくれることが期待されます。





# 2020年度強化選手指定者

昨年12月22日に道場責任者会議を開催し、昨年度の大会成績に基づいて、本年度の強化選手の選考を行い下記の通り決定しました。

組手Aには新たに6人が指定され、継続が7人、残念ながら3人が降格となり合計13人と昨年より1人増員となりました。指定される所属道場が昨年までは今治、本部に集中していたのが西条、空港通り、川東から初めて誕生し、特に西条からは3人が指定されて大躍進しました。未だ指定者がいない道場の奮起を促したいところです。

組手Bは、11人が新たに指定され、8人が継続し計20人となり、昨年より3人増え過去最多となりました。各道場から指定者が出ていますが、特に上部が5人、味酒が4人指定され健闘が目立ちます。

この結果は、各道場独自の強化稽古や合同強化稽古などの各種強化対策の成果が表れていることと、多くの大会にかつてないほど大勢の道場生が出場している大会に対する意欲の結果が出たものと思われまます。

昨年から設けられた型部門では、選考条件は大洲少年大会、部内交流大会、他流派の全ての大会の上級クラスで優勝を年間2回以上という厳しいものでしたが、岩城斗也君(西条)が新規に指定され、組手部門もAという快挙を成し遂げました。

## 強化選手A(組手)

國本明佳(一般女子 今治 継続)、松井弥陸(高校2年男子 今治 継続)、近藤さやの(高校女子 本部 継続)、福岡洸大(中3男子 本部 継続)、北彩花(中3女子 今治 継続)、越智龍(中1男子 川東 新規)、小澤叶夢(中1男子 西条 新規)、北光希(小6男子 今治 継続)、中野結翔(小6男子 空港通り 新規)、岡裕人(小4男子 本部 継続)、岩城斗也(小4男子 西条 新規)、芥川團(小2男子 西条 新規)、

## 強化選手B(組手)

松木洋三(壮年男子 上部 新規)、菊川真莉紗(高校1年 今治 降格)、松井瞭成(中2男子 今治 新規)、高橋葵唯(中1男子 上部 継続)、福岡陽澄(小6男子 本部 継続)、清水航一郎(小6男子 本部 継続)、穂木竜之介(小6男子 川東 新規)、神原杏菜(小6女子 今治 新規)、高橋琉喜(小5男子 今治 継続)、池内琥星(小5男子 味酒 継続)、伊藤陸(小5男子 今治 新規)、瀧田蓮(小5男子 川東 継続)、高橋笑(小5女子 上部 新規)、戎居虎太郎(小4男子 味酒 新規)、奥村悠央(小4男子 味酒 新規)、田邊秀磨(小4男子 上部 新規)、黒田さくら(小4女子 味酒 継続)、松井瞳依(小3女子 今治 新規)、高橋瑛徳(小3男子 本部 継続)、保子凜成(小3男子 上部 新規)、佐藤大緒(小3男子 西条 継続)

※組手Aに指定される条件～全日本少年少女空手道選手権大会(グランドチャンピオン決定戦)権利取得得大会、及び極真カラテ全中四国交流大会、広島県交流試合、大洲少年大会で準優勝以上を年間2回以上入賞すること。なお、一般部ではこれ以外にウェイト制全日本大会、無差別全日本大会でベスト8以上の成績を上げることも含まれる。

(Aに指定された選手は合宿費免除、(一社)極真会館主催の大会の出場料の全額負担、全日本大会の旅費の一部負担がされる)

組手強化選手Bに指定される条件～極真会館及び他流派の大会(初級は除く)において4位以上を年間2回以上、又はそれらと組み合わせるか単独で部内交流大会、他流派を含む各大会初級の部の優勝を年間2回以上入賞すること。

## 強化選手A(型)

菊川真莉紗(高校1年女子 今治 継続)、池内琥星(小5男子 味酒 継続)、岩城斗也(小4男子 西条 新規)(合宿費用免除、極真会館の型大会の出場料を負担)

## 新型コロナウイルス感染拡大に伴う行事開催予定について

新型コロナウイルス拡大に伴い、6月開催予定であった「第25回全日本少年少女空手道選手権大会(グランドチャンピオン大会)」「第36回ウェイト制全日本大会」は延期となり、極真会館としては、来年3月の開催に向けて開催を模索しているが、それができなければ来年6月の開催にずれ込む可能性が高い。仮に感染が収まらずにグラチャンが開催できなければ、申込者には出場料が返還される。

また、本年12月開催予定の「第50回全日本大会(無差別)」と、来年4月に横浜新武道館で開催予定の「第5回世界大会」については、いずれも開催は不透明である。

特に世界大会は今後、中南米やアフリカでの感染拡大が見込まれ、世界各地から選手が来日することから、ワクチンや治療薬が開発されない限り来年秋に延期される可能性がある。

また、愛媛県では既に3月の「第21回大洲少年大会」が無期延期となり、4月に世界20か国から過去最多の約110人が松山市に集まって開催予定であった、戸田道場主催の「国際セミナー」も中止となっている。

その他、5月の昇段審査と、6月の昇級審査も延期となっており、感染状況を勘案したうえで、いずれも今年秋に実施する可能性はある。

さらに、11月1日に予定されている「第8回四国選抜大会(旧愛媛県大会)」は、現状では組手試合の実施は不可能であり、型試合など、どのような形で開催できるか検討中であるが、中止の選択肢も排除できない状況である。

とにかく、ワクチンや治療薬が早期に開発されて終息することを願うばかりである。

## 第25回グランドチャンピオン大会出場権利取得者

今年の6月27・28日に開催予定であった「第25回全日本少年少女空手道選手権大会(グランドチャンピオン大会)」が前記の通り、コロナウイルス感染拡大のために無期延期となった。

戸田道場からは実に15人という過去最多の権利取得者が出て、大会に向けて懸命に稽古をしていた最中であっただけに本当に残念な結果となった。

開催するにはコロナウイルスの終息がなければ難しく、最悪は中止の選択肢もありえる。

せつかく出場権を取得した選手のためにも、是非開催できることを祈りたい。

なお、下記の出場選手からは、事前に大会に向けた抱負を聞いていたが、開催時期が決まっていないことから割愛させていただく。

権利取得者

芥川團(小2男子 西条)、佐藤大緒(小2男子 西条)、松井瞳依(小3女子 今治)、岡祐人(小4男子 本部)、岩城斗也(小4男子 西条)、池内琥星(小5男子 味酒)、神原杏菜(小6女子 今治)、中野結翔(小6男子 空港通り)、北光希(小6男子 今治)、小澤叶夢(中1男子 西条)、松井瞭成(中2男子 今治)、北彩花(中3女子 今治)、菊川真莉紗(高校1女子 今治)、近藤さやの(高校2女子 本部)、松井弥陸(高校2男子 今治)



## 道場紹介(新居浜上部道場の巻)

新居浜市の南部、国道より山側に位置する地域を拠点に活動する新居浜上部道場は、平成29年3月に開設した比較的新しい道場です。現在は週3日(中萩公民館で週2回、角野公民館で週1回)の稽古を行っております。地元小学生を中心に一般部も多く、家族で入門している方が多いのも特徴です。会員は全員仲良く、大人が子供を先輩が後輩をしっかり指導する良い雰囲気の道場です。

極真カラテですから身体的な強さだけを求めるのではなく、心の強さや優しさ、物事の善悪をわかまえることも指導に取り入れております。戸田師範の直接指導を受ける機会が少ない地方道場なので、できる限り師範の指導方法をコピーしながらアレンジしております。

元気で積極的、真面目な生徒が多い道場ですが、今後は大会でも結果を残せるよう、また指導者として空手に携われる人材の育成にも力を入れていきたいと思っております。上部道場の今後の活躍をご期待下さい。押忍。



## 栄えある入賞者(令和元年6月以降)

多くの道場生の各種大会への出場者数の急激な増加は、試合に出たいという貪欲な意欲の表れであろう。また、合同稽古や各道場の強化稽古の成果が出て、入賞者の多さには目を見張る状況にある。

新型コロナウイルス感染防止のために、今のところ大会開催は見込めないが、6月から県内各道場で稽古が再開されており、コロナ終息後の開催に備えて稽古を続けて、多くの道場生が再び栄冠を勝ち取って欲しいものである。

### ○第4回西日本大会(6/30 善通寺市 勇健塾主催)

優勝 芥川團(小1 西条)、第3位 北光希(小5男子 今治)

### ○2019リアルチャンピオンシップ県予選(7/7 県武道館 道真会館主催)

優勝 芥川團(小1 男子上級 西条)、北彩花(中2・3女子重量級 今治)

準優勝 小澤叶夢(小6 男子上級 西条) 第3位 北光希(小6 男子上級 今治)、高橋葵唯(小6 男子上級、上部)

### ○西日本拳法大会(7/14 新居浜 拳剛会館主催)

優勝 越智龍(小6 男子上級 川東) 第3位 瀧田蓮(小4 男子中級 川東)

### ○第1回日本強育大会(10/13 西条 福田道場主催)

優勝 芥川團(小1 男子上級 西条)、松井瞳依(小3女子初中級 今治)、北彩花(中2・3女子重量級 今治)、高橋笑(小4女子初中級 上部) 準優勝 中野結翔(小5男子上級 空港通り)、松井瞭誠(中1男子軽量級 今治)、高橋瑛徳(小2男子初中級 本部)、鷲宥介(小6男子初中級 西条) 第3位 保子凜成(小2男子初中級 上部)

### ○第14回全日本極真大会マズ大山カップ(10/22 岡山 極真水口派主催)

優勝 北彩花(中2女子 今治)、北光希(小5男子 今治)

### ○第6回四国中央大会敬心杯(11/17 四国中央市 敬心会館主催)

優勝 上浅史人(小1 男子ビギナーズ 大洲)、池内琥星(小4 男子チャンピオン 浅井酒)、松木洋三(壮年男子チャレンジ 上部)、準優勝 真鍋瑛太(小5 男子チャレンジ 川東)

### ○2019 極真カラテ全中・四国交流大会(12/1 高松市 極真香川桑島道場主催)

優勝 福田ゆう(小1 上部)、佐藤大緒(小2 中上級 西条)、福田心優(小3 初級 上部)、岡裕人(小3 中上級 本部)、高橋琉喜(小4男子 今治)、穂木竜之介(小5 男子初級 川東)、福岡陽澄(小5 男子中上級 本部)、近藤さやの(一般女子 本部) 準優勝 福田優真(小1 上部)、寒作心(小2 初級 本部)、保子凜成(小2 中上級 上部)、熊野未来(小3 初級 上部)、瀧田蓮(小4 男子 川東)、寒作円(小5 中上級 本部)、福岡洸大(中学男子 本部)、第3位 高瀬壮(小3 中上級 西条)

### ○第6回ローズカップ大会(1/26 福山市 志琉会主催)

優勝 近藤さやの(選抜高校女子 本部)、第3位 田邊秀磨(小3 男子初級 上部)

### ○第4回極真カラテ広島親善交流試合(2/9 東広島市 極真広島宗政道場主催)

型の部 優勝 芳野怜隠(小1~3 三津)、準優勝 井口尊心(小1~3 三津)、池内琥星(小4、5 味酒) 第3位 高瀬壮(小1~3 西条)、小澤叶夢(小4、5 西条) 組手の部 優勝 芥川團(小1 西条)、北光希(小5男子上級 今治)、芥川光宏(一般男子初級 西条) 準優勝 西森正道(小1 三津)、高橋瑛徳(小2 本部)、池内琥星(小4男子上級 味酒)、小澤叶夢(小6男子上級 西条) 第3位 高瀬壮(小3男子上級 西条)、伊



藤陸(小4男子初級 今治) 技能賞 松下環士(小2 空港通り)



## 昇級審査合格者

昇級審査には令和元年6月16日は77人、10月14日は61人、本年2月2日は94人の受審者であった。現在はコロナ感染の関係で次回の昇級審査は未定ではあるが、秋頃の審査を計画中である。

【令和元年6月6月16日】砥部町陶街道公園武道場

### 少年部

- ◆3級 寒作円(本部)、越智龍(川東)、越智和・山下駿(今治)、中野結翔(空港通り)、菊池涼粋・水本知希(大洲)
- ◆5級 佐々木瑛太・瀧田凜・白石悠翔(川東)、村上咲弥・大森夢叶(空港通り)
- ◆6級 村上一琉・村上晴紀・仙波優佳(本部)、辻田紗奈(川東)、神原杏奈(今治)、大森陽智・村上驍・上田悠晴(空港通り)、芳野怜穩・井口尊心(三津)、竹内佑生(味酒)、末光礼(大洲)
- ◆7級 渡部悠馬・寒作心・高橋瑛徳・近藤瑛斗、二宮悠翔(本部)、川上楓太・近藤裕介(川東)、田邊秀磨・石川愛莉(上部)、桧垣楓太・伊藤陸(今治)、田村英誉・黒田さくら(味酒)、末光来羽・畠岡慎一(大洲)
- ◆8級 伊藤源二(本部)、穂木竜之介・今津瑛貴(川東)、保子凜成・石川遥輝・松木蒼真(上部)、桧垣優太・今川遥斗(今治)、土井湊太・竹田依緒莉(味酒)、立川煌貴・畠岡周作・久保智輝・矢野翔琉(大洲)
- ◆9級 近藤千尋(本部)、榊本煌太(空港通り)、渡部陽道・西森正道・小川紗良(三津)、土居優斗(大洲)
- ◆10級 坂本國弘(本部)、山本優翔(川東)、平木邦和・平木久美子(西条)、藤本龍祐(鷹子)

### 一般部

- ◆1級 福岡洸大(本部) ◆2級 村上哲也(県警) ◆3級 白石将博(川東)
- ◆5級 白鞘未羽(川東)、村上敦(空港通り)
- ◆7級 保子圭・松木洋三・石川照人(上部)、水本凜(大洲)

◆9級 芥川光宏(西条)



【令和元年 10 月 14 日】砥部町陶街道公園武道場

少年部

- ◆3級 福岡陽澄・林修作・清水航一郎(本部)、北光希(今治)、池内琥星(味酒)
- ◆4級 東悠樹(本部)、伊東千晃(味酒)
- ◆5級 岡裕人(本部)、鷲宥介・岩城斗也(西条)、東優心(今治)、荒牧優翔(空港通り)
- ◆6級 末廣玲生(本部)、高橋笑・田邊秀鷹(上部)、戎井琥太郎・小松陽翔(味酒)
- ◆7級 末廣琉杏(本部)、岡部日向莉(川東)、熊野未来・福田心優(上部)、芥川團・佐藤大緒(西条)、村上彪(今治)、奥村悠央(味酒)
- ◆8級 宮崎悠一郎(本部)、合田麗央・日野煌太(川東)、福田優真・福田ゆう(上部)、安井第祐・松井瞳依(今治)、西村唄・立川湧空・水本宙希(大洲)
- ◆9級 吉崎駿太(今治)、渡部郁斗(鷹子)
- ◆10級 東大翔(本部)、谷口莉駒(今治)、仙波悠惺・越智隆史朗(味酒)、森岡理仁・秦瑞来(鷹子)、大谷和輝・上浅史人(大洲)

一般部

- ◆1級 高橋みのり(上部)、北彩花(今治)、西村朔(大洲) ◆2級 濱田晋太郎(本部)
- ◆4級 宮崎小織(本部) ◆6級 辻田道晴(川東)
- ◆7級 辻田琉紀(川東)、福田正人(上部)、芥川光宏(西条)、西森友紀(大洲)
- ◆9級 蘆谷幹也(川東)、越智茂登実(味酒)、岡田真治(空港通り)



【令和2年2月2日】砥部町陶街道公園武道場



## 少年部

- ◆2級 真鍋瑛太(川東)、高橋葵唯(上部)
- ◆3級 小澤叶夢(西条)
- ◆4級 佐々木瑛太・白石悠翔・瀧田蓮(川東)村上咲弥(空港通り)
- ◆5級 村上晴紀(本部)、辻田紗奈・河端秀虎(川東)、田邊秀磨(上部)、高瀬壮(西条)、村上驍・上田悠晴(空港通り)、芳野怜隠・井口尊心(三津)
- ◆6級 渡部悠馬・二宮悠翔・高橋蒼大(本部)、川上楓太・穂木竜之介(川東)、伊藤陸(今治)、西村健吾(味酒)、畠岡慎一(大洲)
- ◆7級 ンガンガハダサ・高橋愛蒼(本部)、今津瑛貴(川東)、松木蒼真・保子凜成・玉井瑛人(上部)、吉崎駿太(今治)、政岡魁人・ナエラ ナスラ(味酒)、岡田拓真・松下環土・榎本煌太(空港通り)、芳野翔琉・西森正道(三津)、矢野翔琉・立川煌貴・畠岡周作・土居優斗(大洲)
- ◆8級 高橋大翔(本部)、原五吹(上部)、アルブレフト怜音(今治)、アリフ ファデイル・ガジア ナスラ・パンリマ アブダン(味酒)
- ◆9級 川上滉人(川東)浅海愛夢・砂田鷹影(上部)、兵頭海輝・井住建人・芳野穂佳(三津)、高橋優杏(味生) ◆10級 玉井俊介(本部)、浅海琥雅・砂田蒼彩・砂田琉(上部)、安井祐貴(今治)、古江理人・矢野太晴(味酒)、荒卷晃希(空港通り)、野本明那・武田禅(鷹子)、秋月騎心・久保田楓介・小笠原史興・高橋優杏・川端大雅・山本昌宝(味生)

## 一般部

- ◆1級 進藤大(上部)、村上哲也(県警) ◆2級 宇高悠斗・新田恭一郎・伊藤友紀子(本部)、白石将博・村上彪人(川東)、菊池涼粋(大洲)
- ◆3級 村上敦(空港通り) ◆4級 白石妃菜(川東) ◆5級 カノイメシヤク(本部)
- ◆6級 辻田琉紀(川東)、松木洋三(上部)、水本凜(大洲) ◆8級 玉井裕子(本部)
- ◆9級 フィータ ファジュリア リドワン(味酒)



## トピックス

2019.7.29

6月に開催された「第35回全日本ウエイト制空手道選手権大会」と「第24回全日本少年少女全日本空手道選手権大会」で入賞を果たした、今治道場の國本明佳選手(一般女子軽量級 準優勝)・松井弥陸選手(高校生男子軽量級 3位)・北光希選手(小学5年生男子 ベスト8)の3選手が、大会結果報告をするため戸田師範と共に今治市の越智副市長を表敬訪問いたしました。



2019.8.25

愛媛マンダリンパイレーツ vs 読売ジャイアンツ(3軍)戦で演武をさせて頂きました。広いスタジアムで、愛媛マンダリンパイレーツの選手に気合いを入れた声援を送りました！



2019.9.1

3回目の戸田道場一般部合同強化稽古を実施しました。7月から月1で行っています。学生、社会人の皆さん、忙しい中でも頑張って参加してくれています。夜には、ワールドカップに出場する國本選手の壮行会を松山で開催しました。國本選手は世界1になるチャンスを得た喜びと、そのチャンスを逃さず優勝します！と力強い言葉を語ってくれました。



2019.9.28～29

秋合宿を開催しました。約140人の道場生が参加しました。空手の稽古、楽しいウォークラリーに加えて、今回は新居浜南高校ウエイトリフティング部顧問で、日本オリンピック委員会強化スタッフもされている浅野泰典先生に、空手のための体幹を鍛えるトレーニング方法を伝授して頂きました。



2019.10.14

國本明佳選手の第6回ワールドカップ準優勝祝勝会を行いました。本会では極真会館愛媛県戸田道場後援会長の新日本建設の井上社長から祝勝のお祝いが送られました。今後も戸田道場では「愛媛から世界へ」を合言葉に世界に羽ばたく選手の支援を全力で行います！

2019.10.20

愛媛県大会まで3週間。大会に向けて戸田道場合同強化稽古を行いました。





2019.11.12

國本明佳選手が地元今治市の今治市長に第6回ワールドカップ準優勝の報告をするため、表敬訪問いたしました。



2019.12.20

國本明佳選手が愛媛県知事に第6回ワールドカップ準優勝の報告をするため、愛媛県庁へ表敬訪問いたしました。



2019.12.22

黒帯研究会、通称「帯研」

戸田道場の黒帯と次期黒帯である茶帯による、戸田道場の「黒帯の自覚」「黒帯の技術」「黒帯の絆」を磨く会。今回は「型」の一つ一つの動きの意味を理解し、より一層の技術の向上を図ることを目的として、型の分解稽古を行いました。

型の動きの意味をより深く理解する事は空手道としての原点回帰でもあり、素晴らしい稽古ができました。



2020.2.16

令和元年度まつやまスポーツ笑顔大賞表彰式が松山市役所にて行われ、2019年のロシアワールドカップで準優勝を果たした國本明佳選手と戸田師範が受賞しました。



2020.4

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、極真会館愛媛県戸田道場は3月1日から数ヶ月間、稽古を停止しました。その間、戸田師範はオンラインにて稽古指導を行いました。道場生の元気な姿が見られて安心しました。



2020.4

新居浜川東道場の白鞘未羽さん(高1)と翔盛君(小6)の姉弟が手作りフェイスシールドを140個作成して、地元新居浜市に寄贈しました。皆が辛いとき、自分も辛いとき、そんな中で人の為に何が出来るか考えて、そして、行動出来る事は素晴らしい事だと思います。

